

患者の想いを読み取る力と支える技術

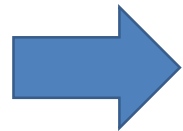
NPO法人ICT救助隊



言語によるコミュニケーションが難しい人が、想いや意思を伝えるための手段

AAC (Augmentative and Alternative Communication) 「拡大代替コミュニケーション」

話し言葉だけに限らず、視線、指差し、身振り手振り、シンボル、文字など、テクノロジーを含むあらゆる手段を用いてコミュニケーションを豊かにする



その人が今できる動作（一人ひとり違う）を見つけて、その動きをどう広げていくかを考えて支援を行う

AT (Assistive Technology 支援技術) の活用

障がいや高齢等に伴う生活上の様々な困難を乗り越えるための支援技術・機器及び、それらを使用するためのサポート全般。



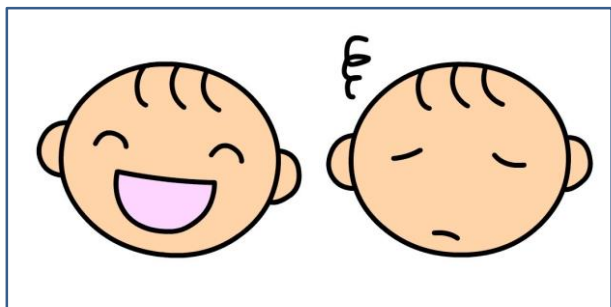
誰がサポートするのか？

コミュニケーション支援の方法

ノンテク

道具を使わないコミュニケーション

表情、視線、発声、ジェスチャー
YES・NO など非言語的サイン



読み取る人が必要
どこでも使える
見逃さない観察力が必要

ローテク

簡単な道具を使ったコミュニケーション

筆談、文字盤、透明文字盤

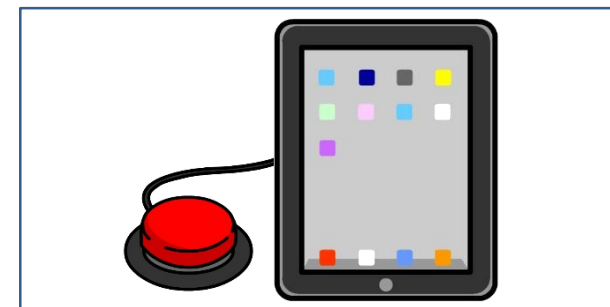


読み取る人が必要
安価で手軽
どこでも使える
練習が必要

ハイテク

電子機器を使ったコミュニケーション

スマホ・タブレット、パソコン



ひとりでできる
社会と繋がることのできる
コストがかかる
電力が必要

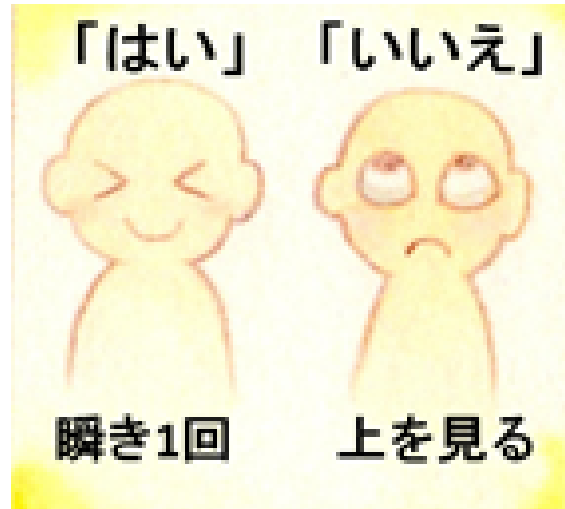
状況に応じて、適したものを併用しながら、コミュニケーションを取り続ける

非言語的サインを見逃さない観察力

患者に合った方法を導入・支援するために福祉機器の知識

ノンテク(道具を使わない)コミュニケーション

YES・NOがわかれば、コミュニケーションを広げることができる



質問は、できるだけ「はい」で答えられるような文章に。
もし「いいえ」の場合には、様々な理由を考え選択肢を出していく。

NGな質問：～についてどう思いますか？

OKな質問：今から経管栄養をしますが
いいですか？

「はい」と「いいえ」の合図を決める

例) 「はい」：瞬き1回 「いいえ」：目を上にあげる

頷き 首振り 瞬き 眼球運動など

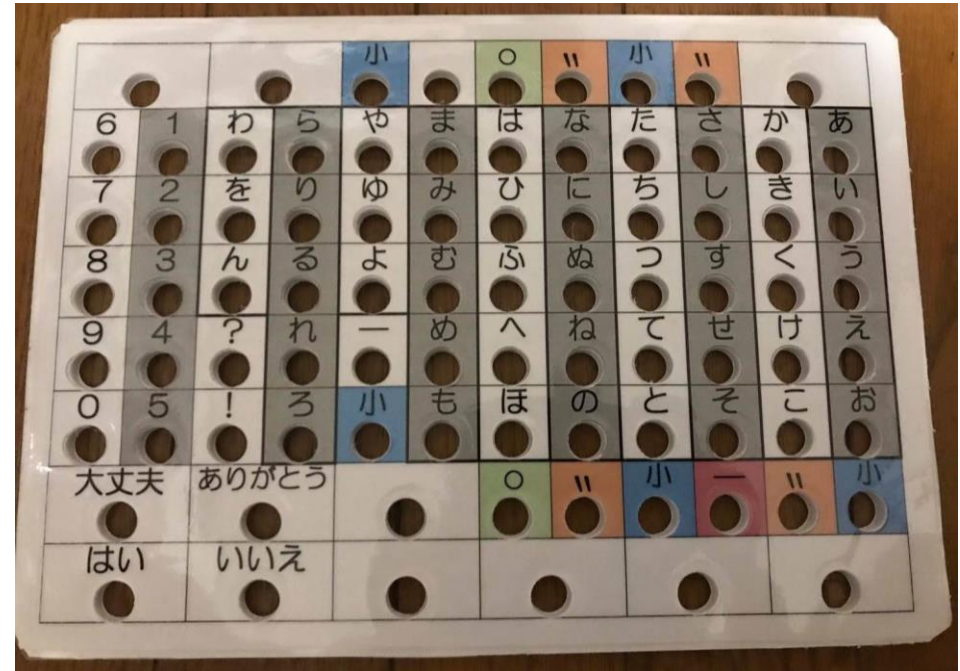
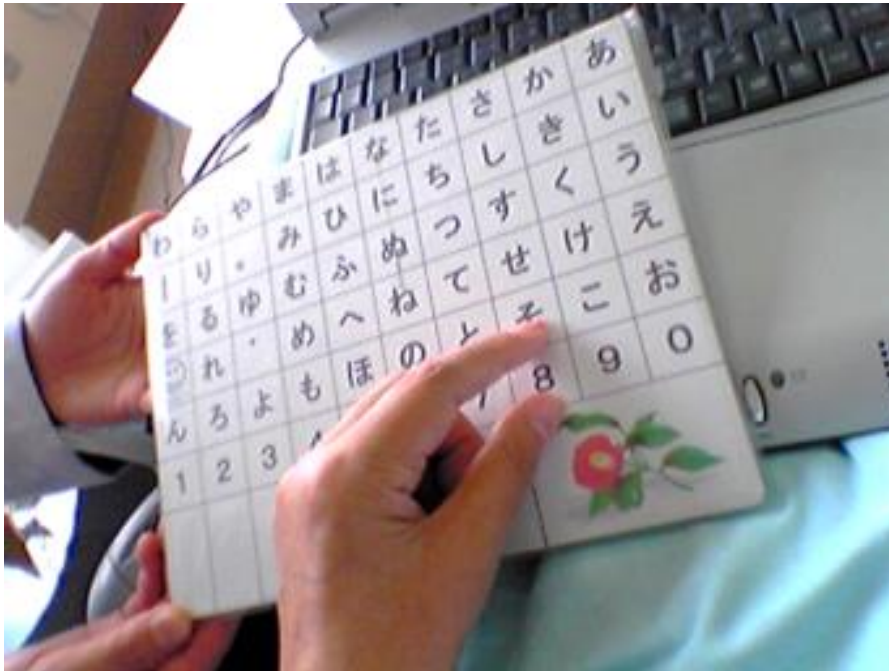
身体機能の変化に応じて変わっても判別できるよう観察し、共有することが大切

ローテク（簡単な道具を使った）コミュニケーション

指差し文字盤

筆談でのコミュニケーションが難しくなってきた場合に有効

文字盤の大きさや文字の大きさ、配置など運動機能に合わせて作成



震えがあっても、指が穴に引かかって確実に文字を指すことができる

フィンガーボード



製品版、Amazonで購入可能。

カスタマイズはできないが、数種類の文字盤が用意されている。

軽くて、持ちやすい。両面に文字が記載されているので、向かい合って使用することができる。

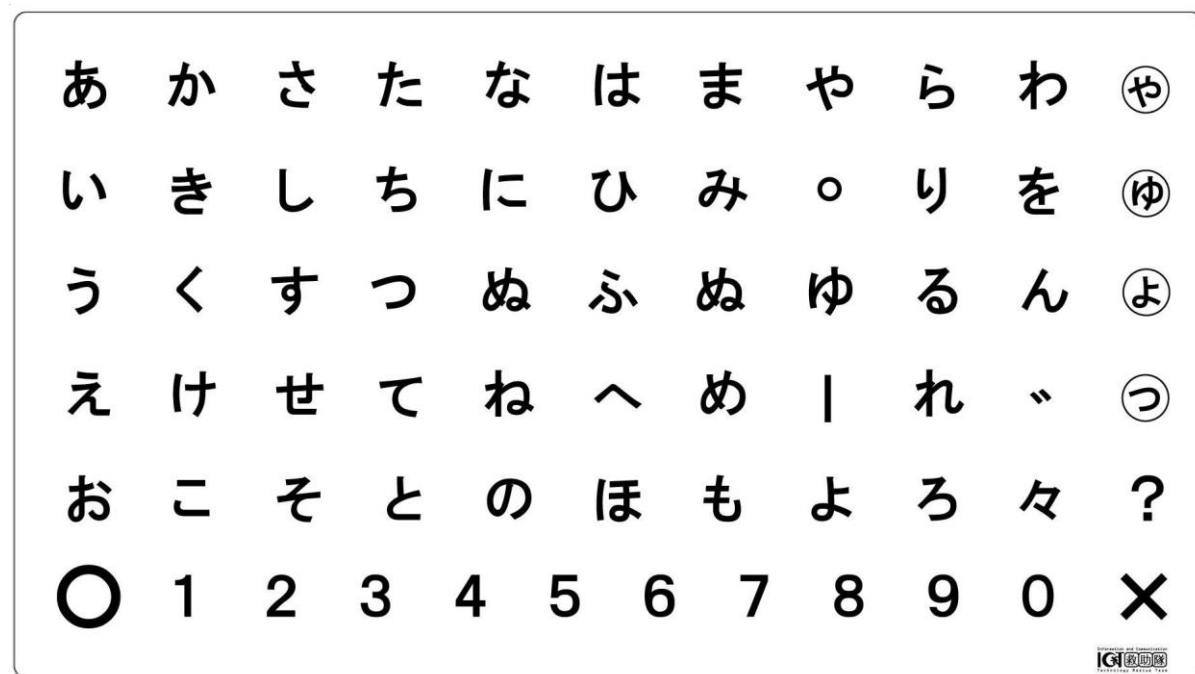


多系統萎縮症で手の震えがひどい女性の方のケース

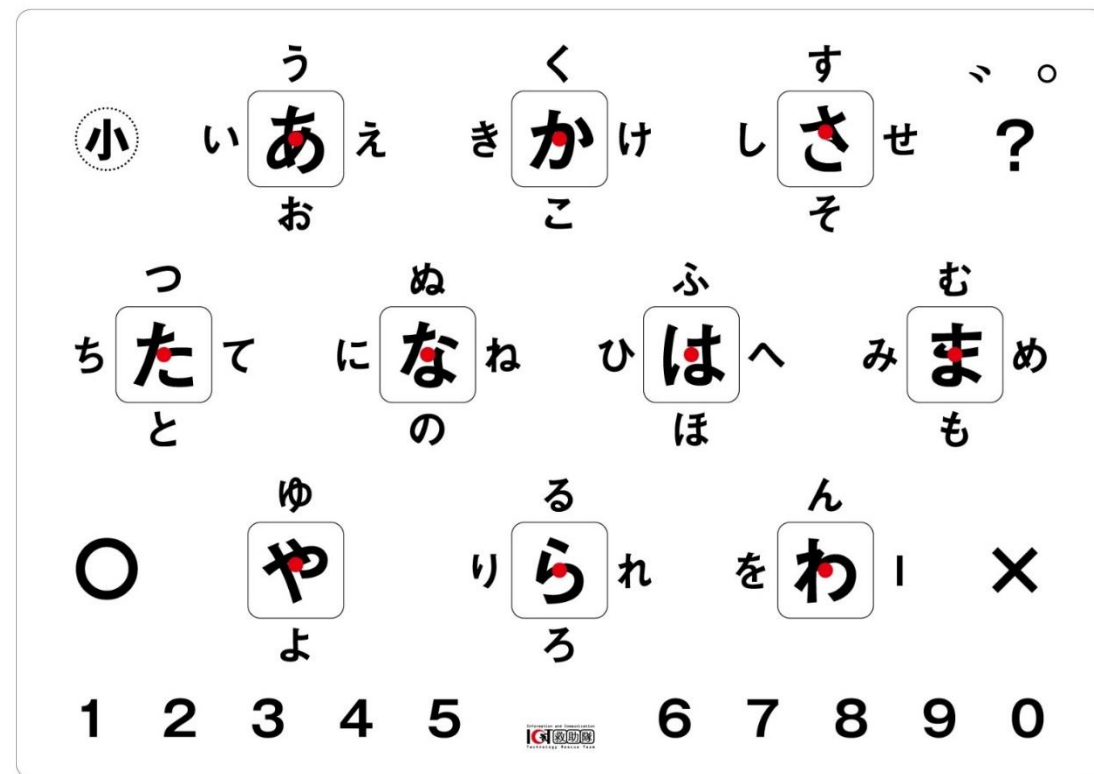
当初手作りのものを使ってもらっていたが、穴に指を入れたときに、少しのバリでも傷ついて痛みがあるということで、製品版の使用でコミュニケーションを確保

透明文字盤

患者さんの目の動きが見えるように透明な板を使い、患者さんがどこを見ているかを判断して、文字を確定していく



50音文字盤



フリック式文字盤

初めての文字盤 テキスト

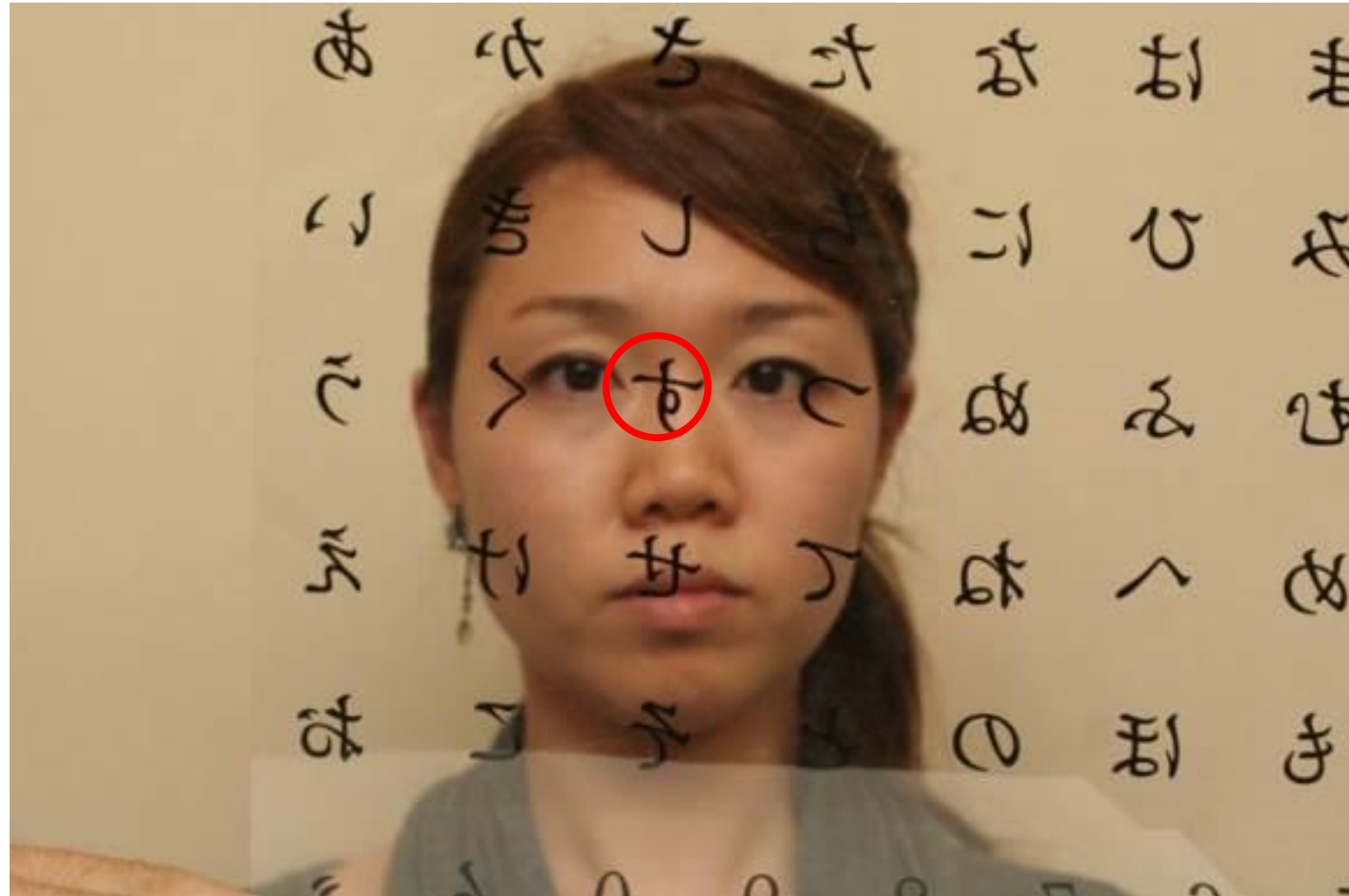


動画

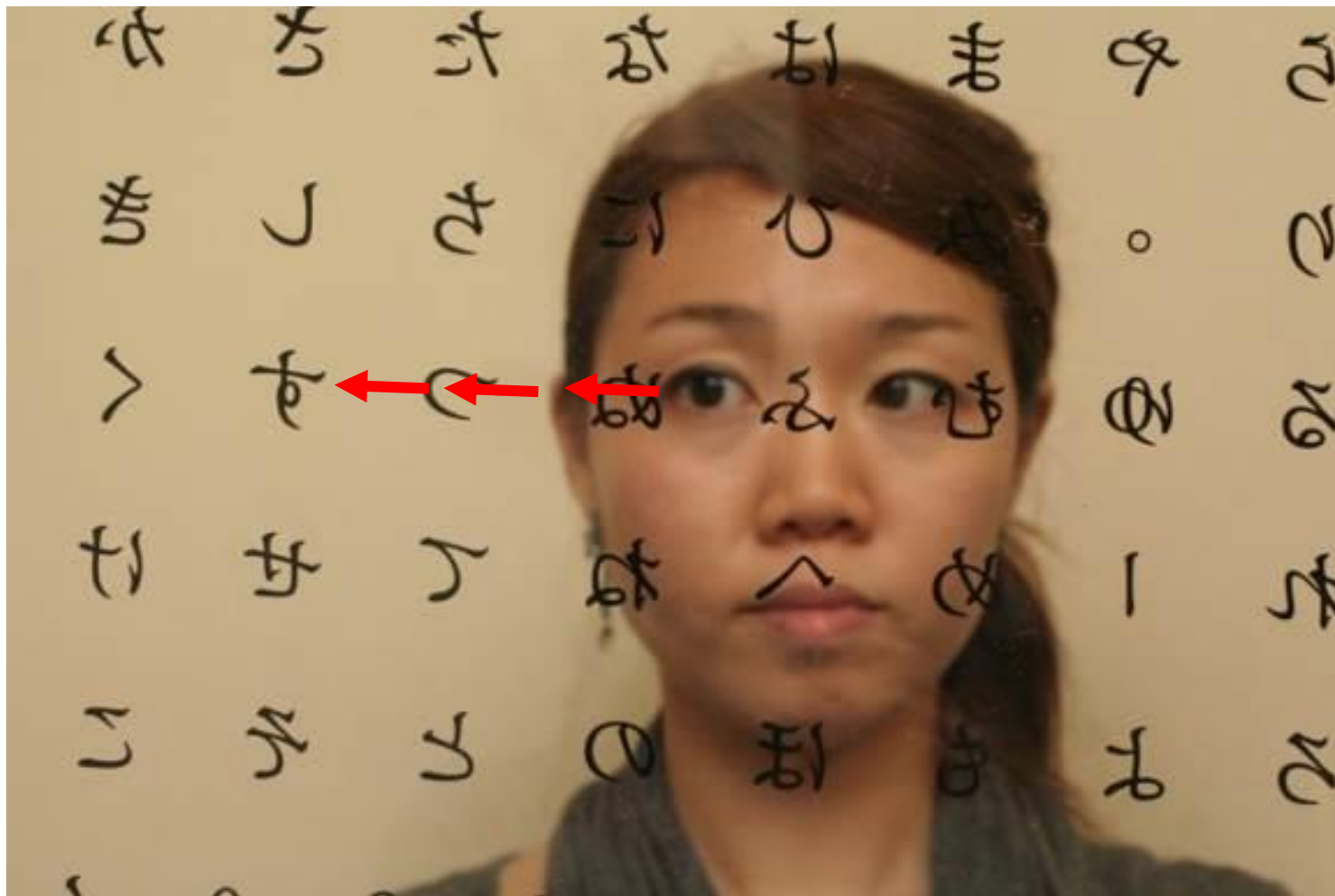


患者さんに特定の文字を見てもらおう

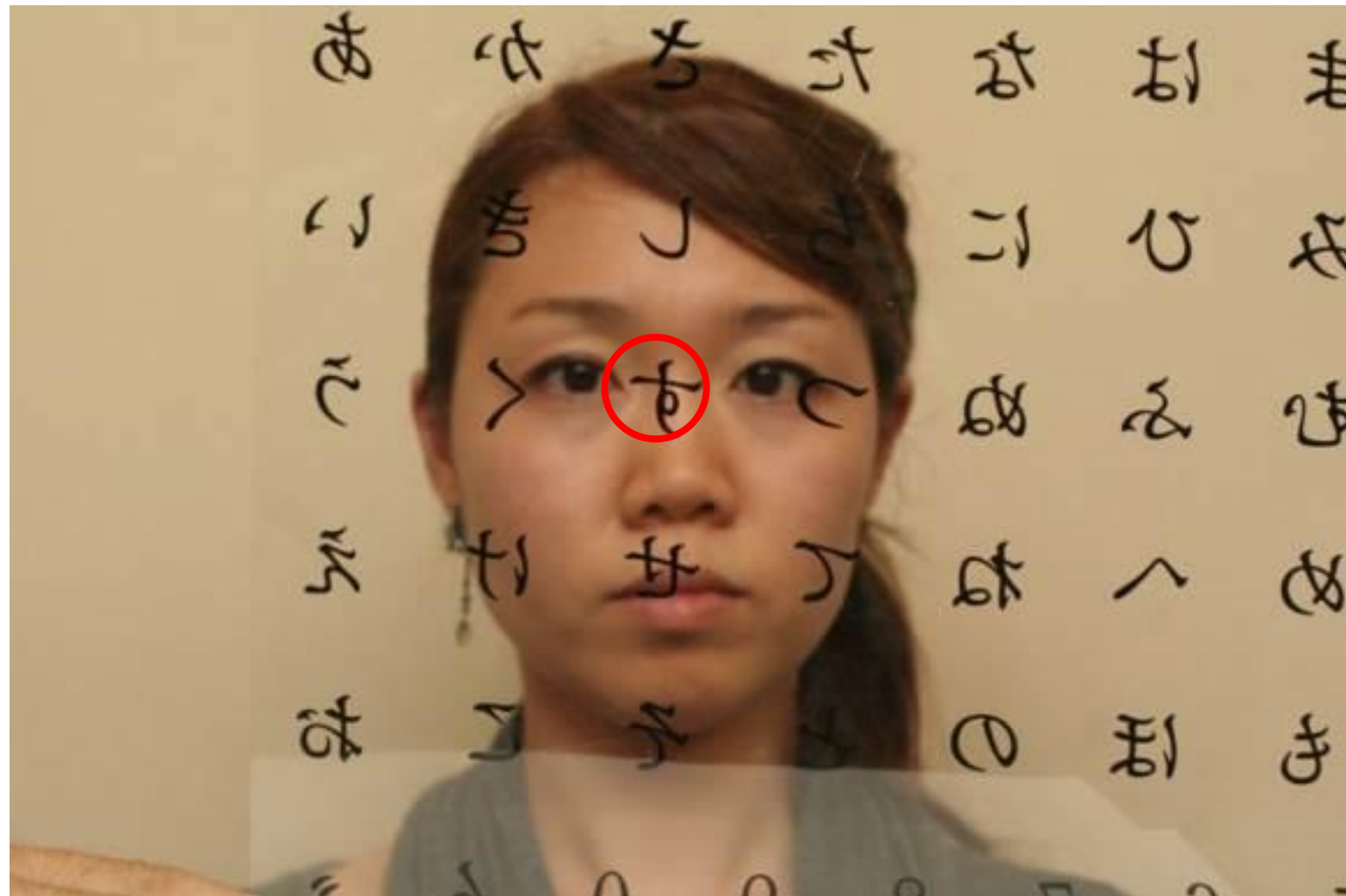
患者さんの視線と自分の視線と文字が一直線になってるときの、患者さんの黒目と白目の位置を覚えておく



文字盤を正面からかざされたとき、患者さんは伝えたい文字をみつめる



支援者は患者さんの視線と自分の視線と文字が一直線になる位置に文字盤を動かす



透明文字盤のポイント

1. サインを決める

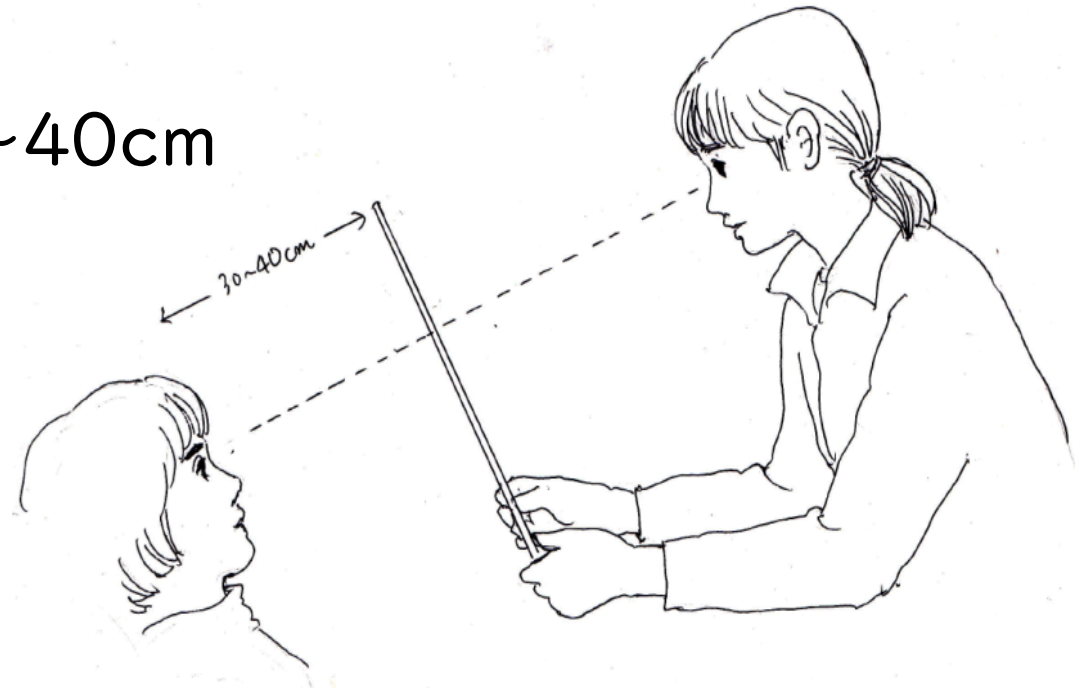
瞬き、複数回の瞬き、瞬きをしない、眼球の動きなど

2. ポジショニング

真正面に向き合う

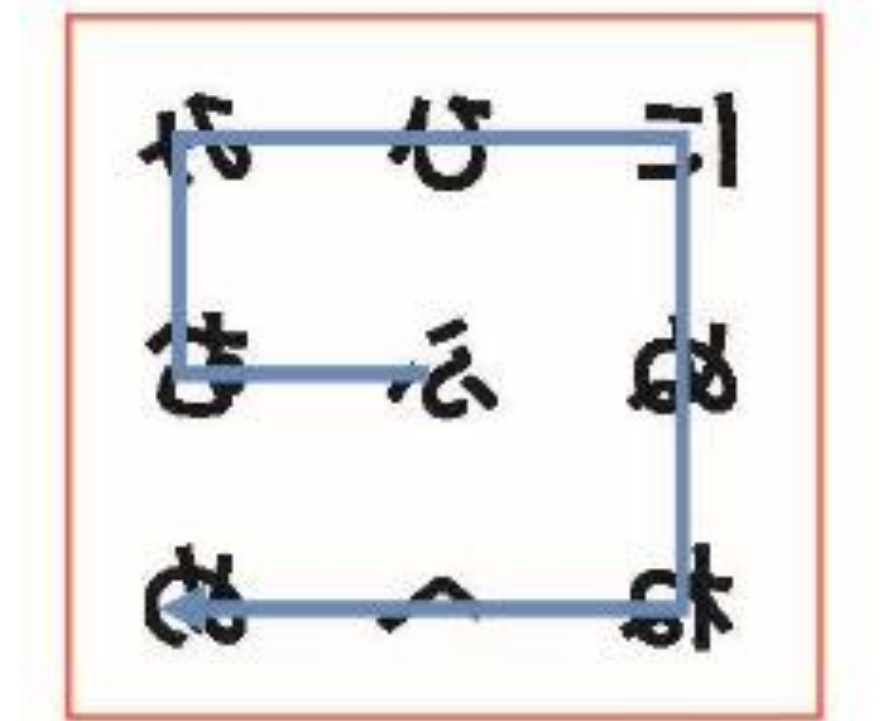
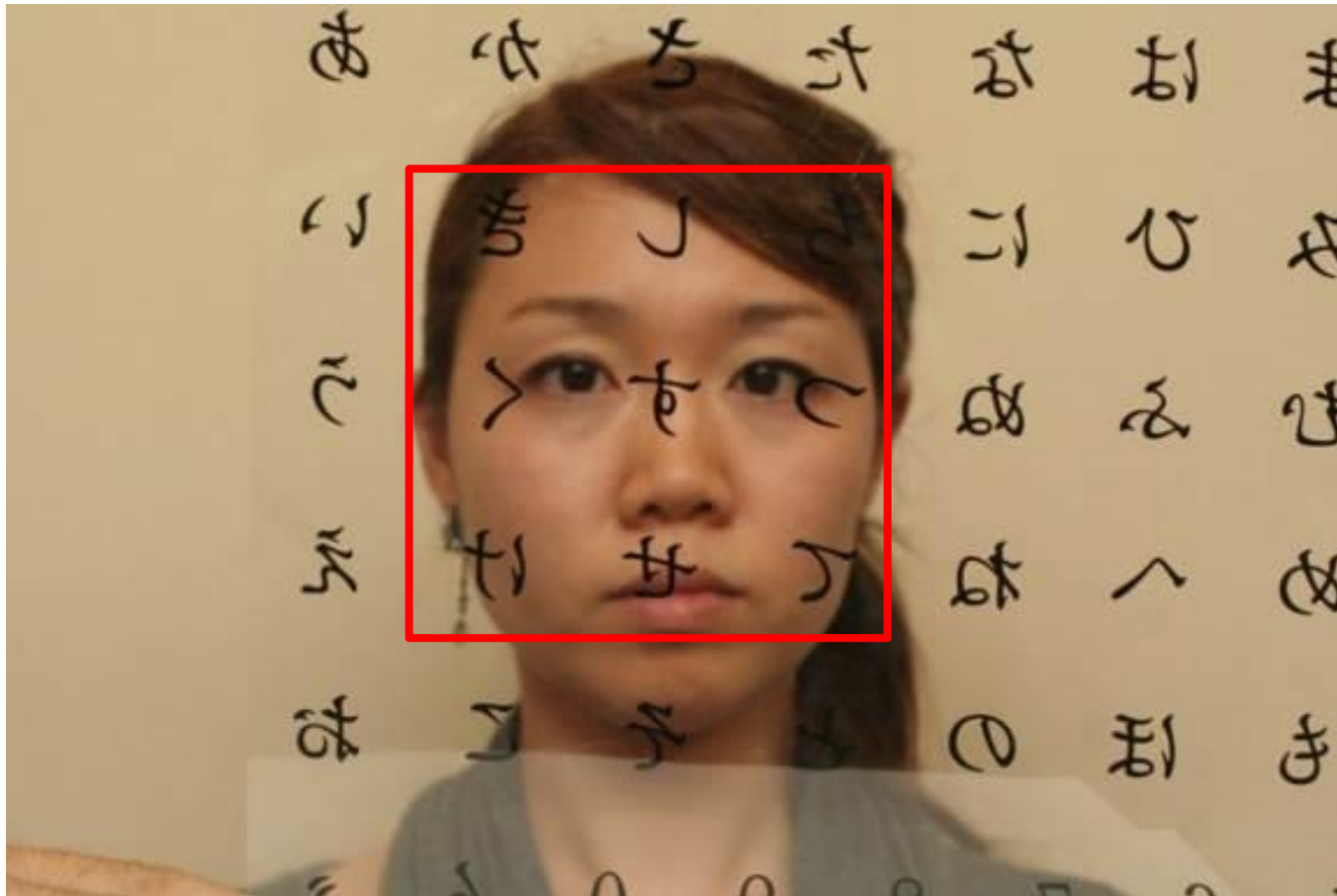
患者さんと文字盤の距離30~40cm

3. 文字盤だけを動かす



4. 1度で当てようとするしない

1回で当たらなかったら、文字盤を動かすのではなく、「周りの文字を1文字ずつ読み上げていく





フリック式文字盤の使い方の例

方法 1

ブロックの中を1文字ずつ指差しながら読み上げていく

「あ」、「い」、「う」、「え」、「お」、「あ」

→ 最初の文字は患者さんが合図を出しずらいので、最後にもう1度言う。

方法 2

ブロックを確定したら、患者さんは目を上下左右に動かす

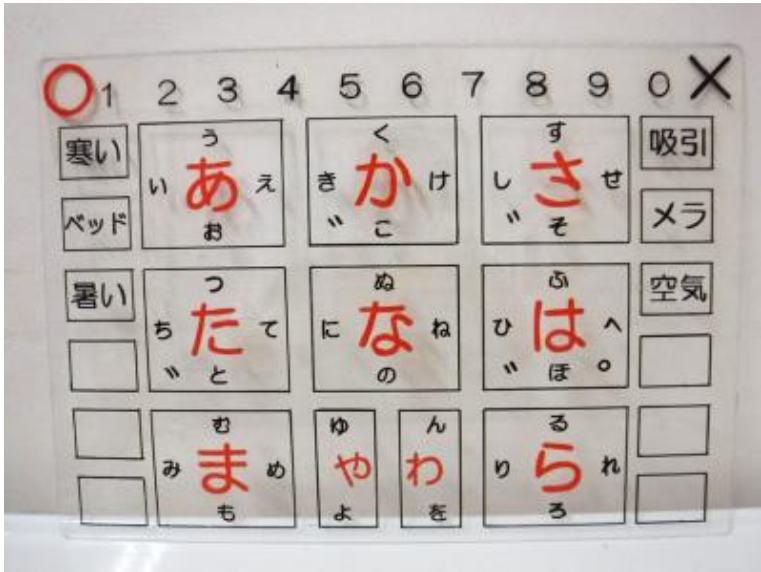
「あ」のブロックが確定して、患者さんが目を下に動かしたら、「お」

文字盤の工夫

使用頻度の高い
要望欄をつけた文
字盤

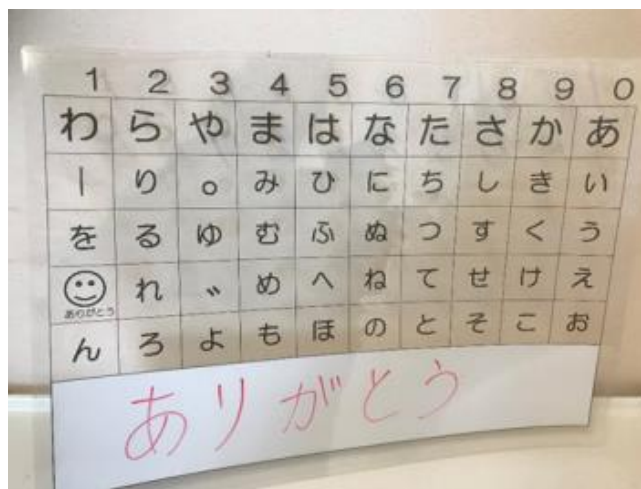


要望だけの文字盤



フリックになじみ
のない高齢者向
けに工夫した文
字盤

自分で選んだ文字が覚えられない



書き取り欄を設け、読み取った文字をホワイトボード用のペンで1文字ずつ患者さんに見えるように書いていき、文字を認識してもらう

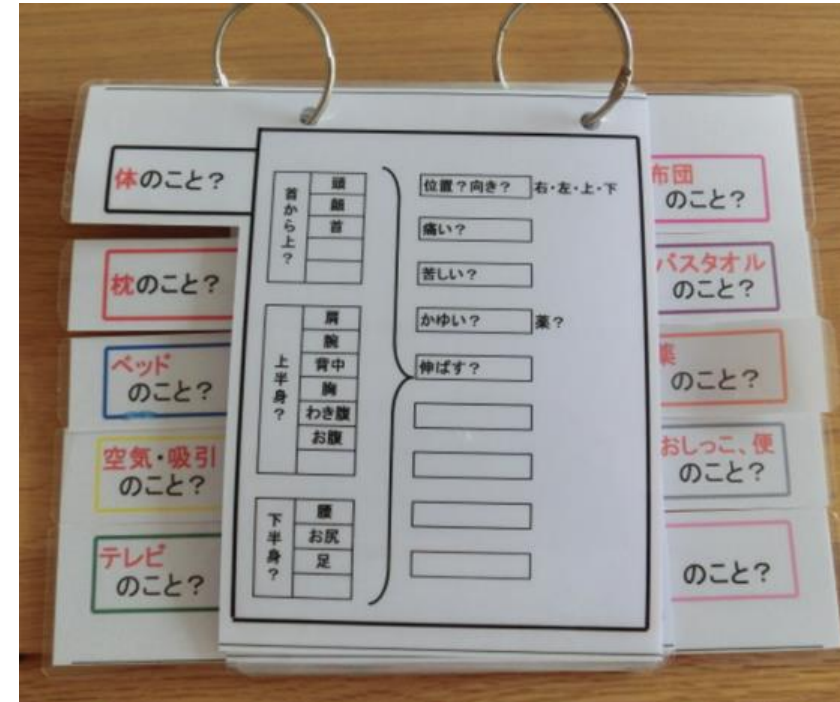
五十音から字を探せない



患者さんが認識できる文字数に調節できる、じゃばら様にした文字盤を使用

コミュニケーションボード

透明文字盤等でのコミュニケーションが難しくなってきた場合、患者さんの訴えを出
来るだけ早く、正確に聞き取れるよう使用します。



今まで多く訴えてきた項目を、本人、家族、スタッフ等より聴取し、そ
の訴えてきた項目をカテゴリー別に分類します。

文字盤のテキストデータ



文字盤の使い方動画

